

平成 27 年度



一般社団法人

保育教諭養成課程研究会

第2回総会・研究大会

今、保育教諭の養成は大きな転換点を迎えようとしています。
子ども・子育て支援制度が開始され、なお模索が続きます。
幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂の議論が始まります。
教職課程の質保証と資格の高度化の動きが重要です。
専門職業大学が創設されれば、その影響は大きいでしょう。
しっかりとした制度設計の下で養成と研修をどう進めるか。
養成校の使命は大きなものとなっていきます。
ともに考えていきましょう。

無藤 隆（本研究会理事長）



日 時 平成 27 年 6 月 7 日（日） 10 時～16 時 30 分

会 場 和洋女子大学

平成 27 年 6 月 7 日 (日)

於：和洋女子大学

一般社団法人 保育教諭養成課程研究会

第 2 回総会・研究大会スケジュール

- 9 : 30 ~ 10 : 00 受 付 東館 16 階
- 10 : 00 ~ 10 : 20 総 会 (東館 16-1)
- 10 : 20 ~ 10 : 50 行政説明 (瀨上孝文部科学省初中局幼児教育課長)
- 10 : 50 ~ 11 : 00 茂里毅文部科学省初中局教職員課長
- 11 : 10 ~ 12 : 40 トークセッション 「保育教諭養成の展望」
大方美香氏 (大阪総合大学), 戸田雅美氏 (東京家政大学), 中澤潤氏 (千葉大学)
コーディネーター: 岩立京子氏 (東京学芸大学)
- 12 : 50 ~ 13 : 30 ランチセッション(昼食) 「幼児教育及び教員養成の施策の動向と今後」
無藤隆氏 (本研究会理事長, 白梅学園大学大学院教授)
- 13 : 30 ~ 14 : 30 情報交換会 (東館 18 階ラウンジ)
*コーヒー, 紅茶のサービスがあります!
- 14 : 40 ~ 15 : 00 研究報告 (平成 26 年度文部科学省委託研究) (東館 16-1)
- 15 : 05 ~ 16 : 30 研究部会発表 (分科会)
東 5-1 (5 階) 15:05 ~ 15:45 「授業方法・授業展開部会」
15:50 ~ 16:30 「特別支援教育部会」
東 5-2 (5 階) 15:05 ~ 15:45 「養成校の学びと幼稚園での実践研究部会」
15:50 ~ 16:30 「保育教諭の専門性研修部会」
東 6-1 (6 階) 15:05 ~ 15:45 「幼小接続部会」
- 16:30 終了
- 17:00 クローク終了 (16-4)

トイレ：16 階、5 階、6 階をご利用ください

飲 料：自動販売機は 18 階、11 階、2 階にあります

クローク：16 階に準備しています。17:00 で終了となりますので、時間までにお受け取りください

名札：お帰りの際に、各分科会場、受付等でご返却ください

※ご不明のことがございましたら、お近くのスタッフにお尋ねください

平成26年度 事業報告

(総会・理事会)

日時・場所・出席者(参加者)	議 事
法人設立報告会 平成26年3月26日 理事4名 監事1名	総会設立報告(文科省訪問) 総会の運営について
設立総会 平成26年6月29日 国立オリンピック記念青少年 総合センター	①経過説明 ②平成26年度事業計画(案)について ③平成26年度予算(案)について ④記念レセプション(来賓挨拶) 懇親会
第1回理事・監事会 平成26年8月20日 理事6名 監事1名	① 設立総会についての報告・反省 ② 今後の展開(会員獲得、レター、紀要等) ③ 次年度総会について
第2回理事・監事会 平成26年10月22日 理事6名 監事1名	① 次年度総会について ② 研究紀要について
第3回理事・監事会 平成26年12月26日 理事5名 監事1名	① 文科省 委託研究について ② 次年度総会について(タイムスケジュール、トーク セッション内容)
第4回理事・監事会 平成26年2月25日 理事5名 監事1名	① 文科省 委託研究について(今年度分) ② 文科省委託研究について(次年度分) ③ 次年度研究大会告知について

(研究会・部会)

日 時・場 所	事業内容
記念講演・研究会(全体会) 平成26年6月29日 国立オリンピックセンター	基調講演(無藤理事長)、トークセッション(神長理事、 岩立理事、太田理事)
(幼小接続)部会 平成26年9月20日(本会議) 平成26年12月27日(臨時) 平成27年5月5日(臨時)	「幼小接続に関する質問紙調査」として、 ①保育者養成校学生を対象にした、保幼小連携・幼小 接続の用語理解と、保幼小連携の内容理解に関する調 査 ②全国の保育者養成校を対象にした、幼小接続に 関する授業の開講状況調査 を行い分析した。
(現職研修)部会 平成26年9月14日 平成27年1月31日	平成26年度の2回の現職研修部会では、①現職研修の 実態と課題の検討、②保育関連 団体の研修に関する情報交換、③科学研究費の基盤 B

神戸大学・及び神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ	の申請（評価はAながら不採択） ④シンポジウムの企画（5/8開催）を行った。
（実習）部会 平成26年10月8日 平成27年1月5日 青山学院女子短期大学	実習における問題点の共通理解、参加部員の所属する養成校の取り組み報告、保養協の専門委員会研究「保育実習ミニマムスタンダード」作成過程の諸課題や工夫についてヒヤリング（那須先生より）
（「遊び」指導・援助研究部会） 平成26年10月22日 平成26年12月22日 十文字学園大学サテライト	第1回 ① 研究部会開催日程、②運営担当、③調査研究内容 第2回 ① 会名称の検討、②研究内容の確認
（養幼実践研究）部会 平成26年9月1日 平成26年12月14日 平成27年2月21日 聖心女子大学	正式名称；養成校の学びと幼稚園での実践（表現等）部会領域「表現」をめぐる養成校の現状分析をおこないました。
（質的研究）部会 平成26年11月1日 平成27年2月28日 人形町区民館	Uwe Flick(編)の「Qualitative Data Analysis」の文献購読及びソフトウェアを使用したデータ整理のデモンストレーションを実施しました。
（特別支援教育研究）部会 平成26年11月22日 平成27年2月21日 ルノアール会議室	予備調査を踏まえ研究デザイン作成。質問紙調査実施集計及び協議。部会の組織と研究の展望についての協議をおこないました。
（授業方法・授業展開）部会 平成26年8月24日 平成26年12月13日 平成27年2月14日 平成27年3月9日 平成27年3月19日 こども教育宝仙大学	授業方法・授業展開部会では、養成課程の授業方法における課題について、先行研究をもとに議論をしました。また、養成課程の講義科目における授業方法の実態や課題を明らかにするために、教員16名へのインタビュー調査を行い、結果を紀要に投稿しました。
（「保育教諭の専門性を探る）研究部会） 平成27年1月8日 市ヶ谷アルカディア集会室 平成27年3月20日 市ヶ谷アルカディア集会室 平成27年5月9日 相山女学園大学集会室	平成26年10月12日 新宿区立あいじつこども園 見学 平成27年3月10日 関東学院六浦こども園 見学 平成27年3月16日（月）ゆうゆうのもり幼保園 見学 見学先のレポートを作成しました。

<p>(実践研究部会)</p> <p>①平成 26 年 8 月 4 日, 11 日, 20 日</p> <p>②平成 26 年 9 月 28 日 夢花保育園</p>	<p>① 保育実践研究公開後の検討会</p> <p>②実践セミナー研究会</p>
--	--

平成26年度 一般社団法人保育教諭養成課程研究会 資金収支計算書

〔自 平成26年4月 1日〕
〔至 平成27年3月31日〕

単位:円

収入の部		予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
大科目	中科目				
入会金収入		490,000	354,000	136,000	
	入会金収入	490,000	354,000	136,000	正会員:3,000円 賛助会員:2,000円
会費収入		810,000	589,000	221,000	*別記の内訳表参照
	正会員会費収入	750,000	580,000	170,000	
	賛助会員会費収入	60,000	9,000	51,000	
寄付金収入		30,000	11,956	18,044	
	寄付金収入	30,000	11,956	18,044	3,256 8,700
総会関係事業収入		300,000	650,000	△ 350,000	
	参加費収入	300,000	650,000	△ 350,000	5,000円×124人 2,000円×15人
研修関係事業収入		100,000	0	100,000	
	参加費収入	100,000	0	100,000	
研究関係事業収入		0	1,914,499	△ 1,914,499	
	委託研究事業費収入	0	1,914,499	△ 1,914,499	文部科学省委託研究費
雑収入		0	63	△ 63	
	受取利息・配当金収入	0	63	△ 63	利息収入
その他の収入		255,000	0	255,000	
	預かり金受入収入	255,000	0	255,000	
収入調整勘定		0	△ 1,914,499	1,914,499	
	期末未収入金	0	△ 1,914,499	1,914,499	文部科学省委託研究費
前年度繰越支払資金		61,300	61,300	0	
	前年度繰越支払資金	61,300	61,300	0	
収入の部 合計		2,046,300	1,666,319	379,981	

〈会費内訳〉

	単価	人数	計
会員	5,000	116	580,000
賛助会員	3,000	3	9,000
合計	—	119	589,000

支出の部		予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
大科目	中科目				
管理支出		370,000	174,436	195,564	
	会議費支出	30,000	140,652	△ 110,652	
	旅費交通費支出	50,000	0	50,000	
	通信運搬費支出	120,000	15,002	104,998	
	消耗品支出	20,000	9,984	10,016	
	印刷製本費支出	30,000	0	30,000	
	広報事業費支出	50,000	0	50,000	チラシ・HP
	支払報酬費支出	30,000	0	30,000	行政書士・公認会計士等
	渉外費支出	10,000	8,798	1,202	
	事務委託費	30,000	0	30,000	運営諸費(光熱水費充当)
総会関係事業支出		121,800	283,149	△ 161,349	
	総会関係事業支出	71,800	266,820	△ 195,020	全体会場・懇親会費等
	創立年度記念事業費	50,000	16,329	33,671	記念品代
研修関係事業支出		332,100	0	332,100	
	研修関係事業支出	220,000	0	220,000	研修会場・講師接待等
	講師支払報酬	112,100	0	112,100	講師謝礼金
研究関係事業支出		800,000	970,000	△ 170,000	
	研究関係事業支出	300,000	970,000	△ 670,000	部会運営費・委託研究事業費等
	紀要発行事業支出	500,000	0	500,000	紀要印刷製本
予備費		47,400	0	47,400	
	予備費	47,400	0	47,400	
その他の支出		255,000	0	255,000	
	預かり金支払支出	255,000	0	255,000	
支出調整勘定		0	0	0	
	期末未払金	0	0	0	
次年度繰越支払資金		120,000	238,734	△ 118,734	
	次年度繰越支払資金	120,000	238,734	△ 118,734	
支出の部 合計		2,046,300	1,666,319	379,981	

監査報告書

監査報告書

1. 監査実施の日時 平成27年5月15日(金) 午後6時

2. 監査の場所 東京駅北口銀座ルノール会議室3F2号室

3. 出席者	幹事	酒井幸子
	理事長	無藤 隆
	理事	柳 晋
	事務局	鈴木みゆき

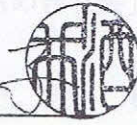
4. 監査の結果

(1) 会計については、詳細な監査を実施した結果、金銭等の処理は明瞭であり、諸帳簿、諸証券の管理も明確に行われており、金銭保管状況が極めて適正であると認めます。

(2) 会務の運営は、適正に行われていたことを認めます。

平成27年5月15日

監事

酒井幸子 

平成27年度 事業計画(案)

この法人は、すべての乳幼児に質の高い教育を提供するとの理念の下、会員相互が保育教諭（幼稚園教諭を含む）の養成に関する調査・研究を行い、また広く幼児教育の充実、発展に向けて調査研究をすすめ、互いに啓発しあうことを通して、教員養成の質の向上と諸課題の解決に寄与することを目的とする。（定款第3条）

今年度の方針

1. さらなる研究の推進（委託研究への申請、紀要発刊、研究部会を中心とした活動）
2. レター、ホームページ等発信の充実

（総会・理事会）

日時・場所・出席者（参加者）	議 事
平成27年度第1回理事会 平成27年5月15日 理事5名 監事1名	① 第2回総会の運営について ② 今年度事業計画について ③ 紀要投稿論文の査読の進め方と分担 ④ ロゴマークの決定
理事会（隔月開催予定）	① 紀要発刊

日 時・場 所	事業内容
第3回総会・研究大会 日程：平成28年6月予定 場所：未定	① 行政説明 ② 研究部会発表

（研究会・部会）

研究部会平成27年度	研究部会紹介を参照
------------	-----------

研究部会ご紹介

本研究会では、それぞれの専門領域や関心を活かしつつ研究部会での活動をおこなっています。今年度の活動内容を各部会長にうかがいました。なお、研究部会はお一人いくつでも参加可能ですし、傍観者体験もアリ！です。

1. 幼小接続部会

「幼小接続研究部会」では、幼小接続に関する実態調査や接続期の発達研究を行い、保育教諭の養成に資することを目的とします。具体的には、以下の研究を進めていますので、関心のある方は是非ご参加ください。現在の部会メンバーは10名です。

1) 幼小接続に関する保育者養成校と学生への質問紙調査

全国の保育者養成校へ質問紙を配布し、幼小接続に関する授業等を調査するとともに、養成校学生を対象に幼小接続に関する理解等について調査しています。現在質問紙を回収し、分析を進めているところです。今後の保育教諭養成カリキュラムの策定に資することを目指しています。

2) 保幼小連携・接続カリキュラムの実態調査

全国の大学附属や各自治体で作成された接続期カリキュラムを収集し、その進展状況や内容を分析する予定です。

3) 保幼小連携と就学前後の子どもの育ちや学びとの関連に関する調査

3年を目安として、保幼小連携の先進地域とその他の地域において、就学前後の子どもの育ちや学びを、保育者・教師へのインタビューや子どもの観察等から探る予定です。

【部会長】白川佳子（共立女子大学）、堀越紀香（国立教育政策研究所）

2. 現職研修部会

現職研修部会では、保育教諭の高度専門職養成と関わり、現職研修への提案につながるような実態調査を行うことを目的としています。

平成26年度は、神戸大学および大阪梅田オフィスにてミーティングを行いました。本年度は採択をめざし、部会で科研申請採択に再チャレンジしたいと考えています。

本年度は、すでに、5月8日に、当部会と「保育Lab」と「中部の保育を高め合う会」共催による園内研修シンポジウムを開催しました。

配布資料について、登壇者のご厚意で「保育Lab」のサイトにアップしました。ぜひご覧ください。

<https://sites.google.com/site/hoikuwikipedia/symposium-shinpojiumu/symposium201558>

【部会長】北野幸子（神戸大学）

3. 実習部会

部員を確定して、いよいよ本格的に指導したいと考えています。

【部会長】岸井慶子（青山学院短期大学）

4. 「遊び」指導・援助研究部会について

遊びをとらえる視点の整理

養成校での「遊び」に関する学び（授業内容）が、実践の中でどのように活用され（現場とのつながり）、またどのような課題を有しているのか（現場との隔たり）について考えるための基礎資料を得ることを目的とし、幼稚園教諭を対象とした予備調査を実施する。

【今後の方向性】

☆遊びの充実に向けた実践研究

☆研修等の提案（養成カリキュラム、現職教育への提案など）

【部会長】 吉田伊津美（東京学芸大学）

5. 養成校の学びと幼稚園での実践（表現等）部会

本部会は領域「表現」に焦点を当てて研究を進めています。昨年度から着手しているのは、領域「表現」をめぐる養成校の現状分析です。養成校における領域「表現」に関わる指導内容については、音楽・造形・身体表現・演劇等の文化的実践の専門性が生かされている良さがある一方で、領域固有の型や知識技能の獲得が自己目的化される可能性などの問題点も指摘されてきました。まずは首都圏の養成校を中心にシラバス・カリキュラムの分析を通して現状の特徴を確認し、そこから見える問題点を明らかにしていきたいと考えます。保育において育成すべき資質・能力を、領域「表現」の観点からはどのように説明していくべきなのでしょうか。またその説明は現在の養成校のカリキュラムから読み取ることができるのでしょうか。メンバーは現在 15 名ですが、その専門性は多岐にわたっており、多角的に問題に取り組んでいます。今後のより良い展開のために、多くの方のご参加をお待ちしております。

【部会長】 今川恭子（聖心女子大学）

6. 質的研究部会

「質的研究部会」は、質的研究に興味のある方、保育教諭と養成校教員による保育の質の向上を目指して実践研究を行いたい方のための部会です。質的研究の方法について基礎的理解を深め、さらに保育所・幼稚園・認定こども園の保育の質の向上を目指して実践研究を行うことを目的としています。平成 27 年度については、ワークショップや専門家による講演などを積極的に取り入れ、質的研究の実践的理解を深めていきます。そして、参加者メンバーによる実践研究を本格的に取り組む予定です。テーマは、保育所・幼稚園・認定こども園の保育の質の向上に関する内容です。初心者ので集まりですので、特に質的研究についての知識を予め持っていなくても関心のある方は奮ってご参加ください。

【部会長】 原 孝成（鎌倉女子大学短大部）【連絡先】 岡本かおり（洗足こども短期大学）

7. 特別支援教育部会

「特別支援教育研究部会」は、特別に配慮を要する子供への手立てを検討し、保育教諭の養成に資することを目的としています。そのため全国規模による調査等を通して、特別支援教育の内

実を把握し、研究を推進します。当面の調査対象を公・私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園とし、対応に困った子供に関する事項や相談先等について、担任・介助教諭及び園長等管理職を対象者として質問紙調査を実施しています。

平成26年度は関東近県某市の幼稚園を対象に「気になる幼児の教育の実態に関する調査」を実施しました。この調査結果を基盤に、調査内容や方法を精査し、平成27年度は関西近県の調査のための準備を進めています。今後は調査対象を広げ全国規模の実態把握を基盤に研究を進め、特別支援教育にかかわる保育教諭養成の在り方をはじめ養成校教員の研修や研究に資することを目指します。本部会は現在8名で構成されています。定例会では毎回ほぼ全員が出席し活発な議論を交わしています。関心のある方の入会をお待ちしています。

【部会長】酒井幸子（武蔵野短期大学）

8. 授業方法・授業展開部会

近年、大学教育のあり方や、教職課程の質が問われています。保育者養成課程の教員の皆様は、授業方法、授業展開に課題を感じながら、どのように授業を行うのがよいのか、十分な研究がなされていません。授業方法・授業展開部会では、保育者養成課程における授業の方法や授業の展開のあり方について検討していきたいと考えております。

昨年度は、養成課程の講義科目の授業方法に注目し、授業担当教員へのインタビューを行い、講義授業における工夫や課題について実態を調査しました。今後の研究計画や方向性は、これから議論していきたいと考えています。是非多くの方にご参加いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【部会長】若尾良徳（浜松学院大学）

9. 「保育教諭の専門性を探る」研究部会

日本各地に認定こども園が誕生し、よりよい保育の在り方の模索と創造が始まっています。こども園とはどういうものなのでしょうか？こども園において求められる保育教諭の専門性とほどのようなものなのでしょうか？本部会では、実際の保育の場に足を運び、生き生きと遊ぶ子どもたちの姿に触れたり、保育者の方々の声を聞いたりすることを通して、これらの問いに向かい合っていきたいと考えています。

研究方法は、①意欲的な実践を行っている子ども園の見学と保育者へのインタビュー ②見学やインタビューした内容のまとめ ③部会（年3～4回開催予定）において見学内容の報告と協議、です。見学を通して、「子どもたちの一日の生活と遊びの特徴」「園舎や園庭の特徴」「0歳児から就学前までのカリキュラムの工夫」「こども園の運営上の課題と工夫」などのデータを収集していきたいと考えています。ご興味のある先生方、どうぞ仲間に入ってください。一緒に研究してまいります！

【部会長】宮里暁美（十文字学園女子大学）

平成27年度 一般社団法人保育教諭養成課程研究会 資金収支予算(案)

(自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日)

単位:円

収入の部		予 算 額	前年度予算	差 異	摘 要
大科目	中科目				
入会金収入		150,000	490,000	△ 340,000	
	入会金収入	150,000	490,000	△ 340,000	
会費収入		780,000	810,000	△ 30,000	*別記の内訳参照
	正会員会費収入	750,000	750,000	0	
	賛助会員会費収入	30,000	60,000	△ 30,000	
寄付金収入		30,000	30,000	0	
	寄付金収入	30,000	30,000	0	
総会関係事業収入		371,000	300,000	71,000	
	参加費収入	371,000	300,000	71,000	
研修関係事業収入		1,000	100,000	△ 99,000	
	参加費収入	1,000	100,000	△ 99,000	
研究関係事業収入		2,913,340	0	2,913,340	
	委託研究費収入	2,913,340	0	2,913,340	文科省委託研究費等
雑収入		1,000	0	1,000	
	その他の雑収入	1,000	0	1,000	
その他の収入		1,915,499	255,000	1,660,499	
	前期末未収入金収入	1,914,499	0	1,914,499	
	預かり金受入収入	1,000	255,000	△ 254,000	
収入調整勘定		△ 2,913,340	0	△ 2,913,340	
	期末未収入金	△ 2,913,340	0	△ 2,913,340	
前年度繰越支払資金		238,734	61,300	177,434	
	前年度繰越支払資金	238,734	61,300	177,434	
収入の部 合計		3,487,233	2,046,300	1,440,933	

〈会費内訳〉

	単価	人数	計
会員	5,000	150	750,000
賛助会員	3,000	10	30,000
合計	—	160	780,000

支出の部		予 算 額	前年度予算	差 異	摘 要
大科目	中科目				
管理支出		362,000	370,000	△ 8,000	
	会議費支出	100,000	30,000	70,000	
	旅費交通費支出	20,000	50,000	△ 30,000	
	通信運搬費支出	12,000	120,000	△ 108,000	
	消耗品支出	40,000	20,000	20,000	
	印刷製本費支出	90,000	30,000	60,000	
	広報事業費支出	20,000	50,000	△ 30,000	チラシ・HP
	支払報酬費支出	10,000	30,000	△ 20,000	税理士等
	渉外費支出	20,000	10,000	10,000	
	事務委託費	50,000	30,000	20,000	運営諸費(光熱水費充当)
総会関係事業支出		360,000	121,800	238,200	
	総会関係事業支出	191,000	71,800	119,200	会場・遠代等
	特別講座関係支出	169,000	50,000	119,000	記念講座運営諸費
研修関係事業支出		140,000	332,100	△ 192,100	
	研修関係事業支出	20,000	220,000	△ 200,000	
	講師支払報酬	120,000	112,100	7,900	講師謝礼金
研究関係事業支出		2,380,000	800,000	1,580,000	
	研究関係事業支出	1,880,000	300,000	1,580,000	研究部会運営・委託研究費等
	紀要発行事業支出	500,000	500,000	0	紀要印刷製本
予備費		20,000	47,400	△ 27,400	
	予備費	20,000	47,400	△ 27,400	
その他の支出		1,000	255,000	△ 254,000	
	預かり金支払支出	1,000	255,000	△ 254,000	
支出調整勘定		0	0	0	
	前期末未払金支出	0	0	0	
	期末未払金支出	0	0	0	
次年度繰越支払資金		224,233	120,000	104,233	
	次年度繰越支払資金	224,233	120,000	104,233	
支出の部 合計		3,487,233	2,046,300	1,440,933	

ランチセッション

幼児教育および教員養成の施策の動向と今後

無藤 隆（白梅学園大学）

1. 子ども・子育て支援制度の動向

- ・平成27年度よりスタートして、当初の予定の7000億に向けた予算確保に成功した。認定こども園も昨年と比べて倍増した。
- ・おそらく待機児童解消は保育士不足は懸念されるものの、おおむね30年度あたりをめどにごく一部の地域の例外がありうるが、解消されるだろう。
- ・私立幼稚園もかなりが新制度に入り、また保育所を含め、相当数が認定こども園に転換するだろう。

2. 幼稚園教育要領等の改定の動向

- ・学習指導要領を含め、資質・能力を基軸として幼小中高とつなぐ。
- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを拡充し、幼小接続を通して幼児教育と小学校低学年教育の関連的な改革を図る。
- ・「学びに向かう力」（仮称）といった、情意面や学ぶことの学びなどについて強化する。
- ・言葉・文字、数などについて年長を中心にふれあう場を増やす。
- ・3歳未満、家庭との連続性を強化する。

3. 幼児教育振興策の動向

- ・市町村単位において、すべての幼保等の教育面での支援を教育委員会が関与する。
- ・幼保等の質の改善に向けて、幼児教育アドバイザーを市町村単位で置いていく。
- ・研修の充実を図るため、中央の組織と自治体の組織をつなぐ。
- ・高度資格の取得の支援を進める。

4. 教員養成の動向

- ・「保育教諭」という統合資格のめどはまだ立っていない。
- ・国、教育委員会、養成校、現場の連携を強化する。
- ・教職大学院の拡充を進める。
- ・初任者研修の量的質的改善を図る。例えば、メンター制度を導入する。
- ・中堅リーダー層の研修を拡充する。例えば、10年次研修や高度資格の取得、大学院における専修免許の取得等を通して指導教諭の推進を進める。
- ・教職課程の質保証を進める。自己評価と情報公開に止まらず、第三者機関による評価も考えられる。
- ・教職課程において、教育実習以外の現場体験の機会を増やす。
- ・小中一貫免許、幼小免許、保育教諭免許等の課題があり、検討を進める。